

機能食品通信

第37号

発行 (株)機能食品研究所

■今回のテーマ

・機能食品研究所は、なぜ100日で

速報を出せるのか? (第6回速報編)



機能食品研究所、梅田です。いつも大変お世話になっております。

「新スタートレックの話題が2号連続で出て来ましたね。」「測定機器の故障時の対応手順を知れて良かったです。」「依頼した試験を見学できるシステム、良いですね。」「機器持ち込みや、依頼者目らが測定者になれるというのも魅力的です。」「いつも通信を読んでいますよ。」「というメール内の追伸・お会いした時にコメントをいただきました。暖かいお言葉、励みになっております。ありがとうございます。」

■機能食品研究所は、なぜ100日で

速報を出せるのか? (第6回速報編)

前回は行程の「⑤試験実施」までお話しさせていただきました。

全体の流れは以下の通り↓【①仕様書作成。②計画書作成・仕様書を基に文章化。

③倫理委員会・ヒトでの試験をする為に計画書等の審査。④被験者募集・試験の目的に最適なモニターさんを選出。⑤試験実施・被験物質を摂取・使用し、定期的に測定。⑥速報：主要解析項目のデータ集計・グラフ化。⑦グラフ案・グラフ案を作成。⑧文章案：文章案を作成し、納得のいくまで練り上げ。⑨完成：仕上げ。】

今月号は、「⑥速報」の創意工夫や体験談をお話します。

■話し声がパツパツ止む時期。

弊社は梅田が営業マンをしております。営業のご挨拶から、試験内容を打合せ、試験の実施、統計解析・グラフ化、報告書の納品まで全ての行程で梅田が一貫して窓口を行っております。

どの行程もお客様のお考えと想いをしっかりと伺い、私は「それならば、この測定項目とこの計算方法が最適です。」「では、このデータも参考用にとっておきましょう。」「この工夫をする事により精度を更に上げ、細かな有効性データも見逃さないようにします。」「とパソコンまで何度も熱い気持ちを胸に、お客様の目的・目標を実現するお手伝いをしております。

いよいよ明日から試験本番(摂取・塗布・使用開始)がスタートですという時の話。その時、梅田はお客様に「速報提出時、つまりキープン(群)の内訳開示完了まで、試験の公平性を守るため、感情を入れない

メール文章での連絡に切り替わります。お手数をおかけしますが、なるべくメールでの連絡をお願いします。」とお願ひしております。

これには理由が有ります。試験実施中に電話でお客様と連絡を行った場合「あれ？梅田の声のトーンがいつもより明るい気がする。何か良い結果が出ている事を隠している？」とか「梅田の声のトーンが気のせいかな、外出先だから声を押し殺しているか、もしくは試験結果が良くなかったのを隠している？」「この話口調だとポジティブな結果だったと思う。ネガティブな結果だったら、ここまでスラスラと喋らないだろうから・・・」のようにお客様側で深読みが生じるかもしれません。

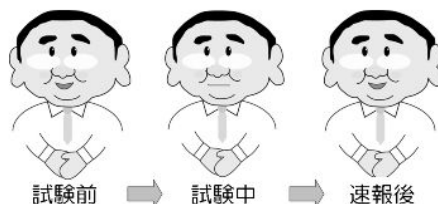
私を含め弊社のスタッフのうち一部の者は、試験の実施中に安全性に関わるデータには目を通しております。その理由ですが、試験が終わってから血液データ等の結果を見たら、実は試験最中に有害事象(身体に悪い影響が発生が起きていた事が分かったなんて事が有ってはいけません。安全性の観点から常にデータを把握しておく責任があるためです。原則として、有効性に関わるデータは把握しないようにしておりますので、試験中は知りません。しかし、お客様からしましたら「試験中の時期でも実は知っているはず。」と思われるあたり前です。私が逆立場でも、そう思います。私の話す内容がお客様の深読みを生じさせてしまつなんて、私って罪作りの男です。このような理由から、お客様側で

深読みをされなくても済むようにするためにはどうしようと考えました。その結果、口頭は失言のリスクが有るので、何度も推敲できるメール連絡にすれば良いという結論に至りました。沈黙は金なのです。

このようにして、試験前は【熱血梅田】、試験中は【口を開かない梅田】、速報後は【熱血梅田】という、流れが生まれました。

試験期間中はメールで「ただいま4週目測定が無事に終了しました。医師問診に於ける脱落者無しです。」「4～8週目の荷物、計5箱、確かに受領し内容物確認を完了しました。」「のようになるべく要件のみを短文で書いて済ませています。試験前はあんなに色々と熱く打合せを重ねていたのに試験が始まったら梅田が静かなので「少し寂しいね。」と言われた事もあります。

要件のみを短文で書く時ですが、言葉足らず原因で失敗をした事があります。機能食品通信18号と重複しますが、それは、速報データが完成した木曜の昼の話です。早く結果をお伝えしたいという気持ちで速報用のデータ処理を頑張り、試験結果の速報データが出来上がりました。私は心の中で『いつも通りの1晩寝かして、明日(金曜)になってから最終チェックをしてから提出しようか? まだ提出締め切りまで余裕がある



試験前 → 試験中 → 速報後

けど、お客様からしたら早くにお知りにならねたい情報なのは明らかと

思う。明日の金曜にお見せできればお客様は週末をモヤモヤせずに過

ごしていただけるが、明日がご出張中ならば無理してでも本日中にお渡

した方が良いでしょう。』と思ったのです。さっそく私はメールで「本

日木曜または明日の金曜の中でメールとお電話をできる時間帯をお

教えてください。』とお送りし、回答を待ちました。するとお客様から「木

曜(本日)はいつでもOK、金曜(明日)の14~15時以外はOKです

よ。』と回答をいただきましたので、では明日の金曜17時に宜しくお

願いしますという事になりました。そして翌日の17時に速報メールを

お送りし、間髪入れずにキーオープンのメールを戴きました。この瞬間

に感情が解禁です。すすへにお電話で結果について感情を隠すこと無くお

話をさせていただきました。その時、お客様から「昨日のメールですが、

ひょっとしたら悪い話だからメール直後に電話でお話をしようという

事かなと、深読みしていました。良い結果だったので気にしていません

が。』という感想を教えてくださいました。お客様は笑いながら教えて

くださいましたが、今の今までドキドキされていた事は事実です。今後

こんな事は決して有ってはならないと反省し、次からは試験開始前に

「今から感情を入れないメール文章でのやりとりとなります。特にキー

ください。』と予めお伝えする再発防止策をご報告いたしました。

このように平日頃から気をつけて行動をしておりますが、私の修行が

未だ足りないため、どうしても気がつかない事もあります。そのため、こ

のようにお客様から感想のお言葉)&機能食品通信への掲載の「許可

を戴けます事を、とてもありがたく思っております。皆様、お気づきの

点等ございましたら、どんな些細な事でも是非ともお知らせください。

■100日で速報を出せる方法。

弊社は通常、試験の最終日(最終測定日)から、データ量にもよしま

すが約14日で、有効性に関する速報データ・グラフをお出ししてお

ます。お出した内容をご覧いただいたお客様から「早いね。」「この期

間で、これほどの情報が出てくるとは驚き。』と仰っていただけである

事から、ご満足いただけていると実感しております。

お客様は1日も早くデータをご覧にならねたいという気持ちです。その

お気持ちに伝えるためにも、速報データを迅速に作成するための効率的

なシステムを3つ作りました。

① ほぼ自動の作表システム

② 統計解析とグラフ作図の自動作成

③ オリジナルのチェック表

これらの3つを簡単に説明いたします。

【① ほぼ自動の作表システム】は、測定現場にて測定機器からパソコンに自動記録されたデータをそのまま使って作表できるスケレモノです。パソコンに繋がっていない機器や自動記録非対応の機器の場合も、少ない作業で作表できるようになっております。

【② 統計解析とグラフ作図の自動作成】は、①の行程で作った表をそのまま統計解析ソフトにかけられるようにしてあります。そして各種グラフを即座に作れるような雛形を各種用意してあります。

これら①と②については、いつか、映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の冒頭出てくる、朝、ベッド脇に有る目覚まし時計のアラームを止める時、それに繋がれたトースターや玉子焼き機が自動で作動し朝食が完成というカラクリのように1つの入力で多数の成果物が自動で出てくるような洗練したシステムにしたいと思っております。

【③ オリジナルのチェック表】は、速報作成の各工程に於いて一切の先入観を捨てた状態のヒトの目でトリプルチェック(3回まわりの確認)をする時に、無駄なくスムーズに行えるチェック表です。

これらの3つを駆使すれば量にもよりますが約14日で速報データを

お出しできます。もっと早く速報が必要な場合は、なるべくご契約前にご相談ください。10日以内も可能です。月並みな方法で恐縮ですが、ご相談をいただきました時に予定表の空きがあれば、全て速報作りを入れ、努力と根性で更なる期間短縮を実現します。その場合は特急料金がかかります事は、ご容赦いただきますようお願いいたします。

日	月	火	水	木	金	土
測定	解析, 作図	解析, 作図	解析, 作図	解析, 作図	解析, 作図	解析, 作図

このように、機能食品研究所はおお客様の「早く正確な結果を知りたい」というお気持ちに添えられるよう速報作成の技術を磨いております。

そして、次の工程「⑦ グラフ案」へと進みます。

【news】お客様の「愛顧」と、皆様の「指導・」支援をいただきましたおかげで「みえライフィノベーション総合特区」に、機関の1つとして参加させていただける事になりました。これからも更に技術を磨き、精進いたします。

回覧・印

最後のページまでお読みいただき、ありがとうございます。差し支えが無ければ回覧いただけること幸いです。